

提言 西山杉の利活用推進

提言の背景・趣旨

本町の山林面積は町全体の約 9 割を占めており、民有林内の人工林面積も村山地域の市町の中で最も広い。また、山形県、西川町、大江町、朝日町の林業・木材産業関係者で設置した西山杉利活用推進コンソーシアムによると、西山材の総生産量のうち本町の生産量は約 9 割を占めているとのことである。しかしながら、県民の多くは西山材の主たる産地を大江町と認識している。これは町の林業に対する意識の低さと、それによる施策の遅れが原因と思われる。

このことをふまえ、西川町議会では平成 28 年度に「林業を基盤とした産業振興」の政策提言を行い、積極的な事業の推進を求めたが、その後、目立った成果は見られない。

山形県では、育てる林業から使う林業までの緑の循環システムを構築する「山形森林ノミクス」の取り組みを推進し、産業の振興と地域の雇用の創出を図っている。

町においては、第 6 次西川町総合計画の後期計画策定に向けた作業が始まっており、この機会に森林を活かした林業基盤の産業振興を進めるための手立てを加速させる必要がある。

以上のことをふまえ先の提言内容をふり返るとともに、より多くの町民の方々が西山杉に興味を持ち、自らの生活に取り入れていただけるよう、提言する。

平成 28 年度政策提言のふり返し

平成 28 年度の政策提言は、当時だけでなく今もなお西川町議会として町に取組みを求めているものである。今回の提言とも大きく関連するため、再掲することにより町として取組み状況の確認を行っていただきたい。

1. A 材販売を中心とした町経済の活性化について

林業基盤の 6 次産業化

町産材利用の町外建て主に対し、ふるさとクーポンや町内宿泊券、飲食券などの町産品を返礼し、A 材が豊富な町産材の普及と P R に努め、交流人口増加や農産物の消費拡大といった林業を基盤とした 6 次産業化と町の経済発展効果が得られるよう仕組みを構築すること。
川上・川中・川下への支援

丸太のストックヤードで A 材を選別しその割合を高めるため、原木流通拠点施設の設置について町として主体的に取り組み、町管理の遊休地の優先的貸与や財政的な支援を行うこと。

また、町産材を使った住宅の新築や増改築について大幅な支援の拡大を図るとともに、町内外の建て主や設計士、施工業者などへの P R も行うこと。

2. 森林資源の循環システムの構築について

林道・作業路の整備

林道、作業道などの森林路網を整備し、作業経費の低コスト化を図ること。また、林道の開設にあたっては、10 トン車が通行できるような幅員を確保すること。

再造林等への町単独の補助

再造林や下刈りなどに対し、国や県からの補助に上乗せする町単独の補助金の交付を検討すること。

人材育成

林業経営や林業技術の専門的資格取得への支援など、人材育成の対策を講じること。

木質バイオマスの活用

森林から産出される資源を最大限に活用するという意味からも、C・D 材を利用した木質バイオマスボイラーや発電設備等の設置を早急に行うこと。

提言内容

西川町議会では、本年度、行政評価（事務事業評価）の対象事業として、西山杉利活用推進事業を選定し、評価を行った。西山杉は資源としての規模が大きく、その活用次第では町の産業として大いに発展させることが期待できる。町では、国や県の林業政策の動向をふまえながら関係者の連携強化を図り、西山杉の利用促進に向けた様々な取組みを行っているが、さらに町全体への広がりを創出すべく、次の施策について提言する。

各世代に応じた西山杉製品とのふれあいと生活への導入

昨年度、にしかわ保育園の園児に西山杉の積木 880 個がプレゼントされ、大変好評であったと説明を受けた。もともと身近にありながらも意識しなければ手に触れることのないものだが、このような取組みにより西山杉の手触りや香りを感じ、そこから故郷をイメージできるような、いわゆる「木育」は本町に必要な取組みであり、そこからさらに広がりを持たせていくべきである。

また、学校行事や大人になってからの様々な節目を、西山杉製品を手にする機会と捉え、柔軟な発想に基づく様々なジャンルの製品開発に関する研究、検討を進めるべきである。

以上のことから次の事業を具体案として提示する。

1 出生時のふれあい

健康福祉課所管の全出生児に対する「出産祝い金」事業に合わせ、一つひとつに子どもの名前を刻印した西山杉の積み木セットを贈呈する。

2 就学時のふれあい

以前、町内の小学校児童を対象に町産材で製作された学校用の椅子と机が贈呈されていた。木製の椅子は、汎用品にはない温かみがあり、使い続けることで味わいも出てくる。未永く愛着を持って使っていただけるような椅子を西川小学校 1 年生全員に贈呈する。

3 西山杉製品のアイデア募集

町民を対象に西山杉を使った製品のアイデアを募集し、特に優秀なアイデアを基に実際の製品を作り、商品化に結びつける。

4 木工製品の展示（企画展）

西山杉による製品のほか、全国の魅力的な杉材による木工製品の工房に呼びかけ、町内で展示即売会を開催する。これを定期的で開催することにより、新たな製品開発のヒントを得られるほか、水の文化館のような休眠施設の利活用にもつなげることができる。

5 西山杉で最後を見送る

さらに踏み込んだ考えとして、西川町で生まれ育った方や西川町で最後の時を迎える方には、ぜひ西川町で育まれた西山杉を使った「棺」で安らかに旅立っていただきたいという考え方に立ち、実現は困難を極めると思われるが、多くの町民の方々からその価値をご理解いただき、西川町の葬送のスタイルとして定着させることを検討すべきではないか。

木工製品の製作を担う職人の誘致と育成

子どもたちに贈呈する積木や椅子はもちろん、木工製品として多くの消費者から選ばれるには、まず興味をひき、愛されるようなデザインが求められる。さらに、その木工製品を買っていただくためには高い品質管理や機能性、安全性などが求められる。こうした条件をクリアできる木工製品を製作するためのデザイナーや職人などが必要である。

以上のことから次の事業を具体案として提示する。

1 職人の掘り起こし

政策推進課所管の地域おこし協力隊の事業の一環として、確かな技術やセンスを持つ職人を全国から募集する。

2 職人の育成

- ・ 学校教育課所管の育英奨学金制度の枠を広げ、木工製品の製作技術を専門的な機関等で学ぶ方に対する支援制度を新設する。
- ・ 上記1の職人や専門のデザイナー、東北芸術工科大学等との連携により、西川町らしい木工製品のデザイン指針をまとめる。

建設用資材としての建て主へのPR

今年2月26日に行われた「家づくり意見交換会」では、居住者の立場に立った家づくりについて、西川町匠の会の方々と町内の女性の団体（Loveらば、なないろキッズ）が意見交換を行っている。実際に住宅を建築しようとする方々にとって西山杉がどのように捉えられ、家づくりにどう生かされるかを聞き、傾向をまとめ、販売につなげていくためにも、このような意見交換会は今後も継続していくべきである。

以上のことをふまえ次の事業を具体案として提示する。

1 イメージのまとめ

モデルハウスのミニチュアを展示したり、3D映像などをホームページで公開したりするなど、形として表現し、これから住宅を建てようとする方々から興味を持っていただく。

2 モデルハウスの建築と販売

上記のミニチュアなどで好評を得た住宅を、取組みの集大成として実際に建築し、一定期間はモデルハウスとして公開し、その後は抽選などにより希望者へ売却する。

木質バイオマスの活用

これまで町は、木質バイオマスボイラーや発電施設の燃料となるチップ材等の確保が十分にできないことを理由に導入を見送ってきたが、それではいつまでたっても森林資源の循環システムは動き始めない。例えば木質バイオマスボイラーの導入を先行し、その稼働に必要な燃料を何としてでも確保するという強い意志をもって事業を推し進めるような決断を、町長自らがすべきである。

以上のことをふまえ次の事業を具体案として提示する。

1 木質バイオマスボイラー導入

今後、更新時期を迎える町関連施設のボイラー設備は、原則として木質バイオマスボイラーを導入する。

事業に見合う組織体制の整備

今回の提言のテーマである「西山杉の利活用推進」を含む「林業を基盤とした産業振興」は、町の将来をも左右する重要な事業と議会では認識している。今回の提言をふまえ、この重要な事業を推し進めるにあたり、機構改革も見据えた人員や組織体制の確立が必要である。